有限会社ひまわりニット

■事業
**多品種・小ロット・短納期の
生産体制の構築による受注の拡大**

■対象類型
ものづくり技術

■導入機械装置
入力機能付き電子サイクルマシン　JUKI AMS−224ENH

経営理念　確かな縫製技術で顧客のファッションニーズに応える企業を目指します

電子サイクルマシン導入で生産効率が向上
多品種、小ロット、短納期を実現し、
ハイクオリティーブランドへも進出

トヨタソーイングシステム（TSS）を推進し厚い信頼関係を構築して受注拡大

有限会社ひまわりニットは1991（平成3）年、縫製経験のあった先代社長が設立。大手アパレルメーカー各社のOEM（相手先ブランドによる生産）に携わり、学生服や体操服などの学校関係製品をメインに、機能性の高い衣類を顧客ニーズに合わせて小ロットから請け負ってきた。

後継として2017（平成29）年、県内外の縫製工場で工場長を務めるなど婦人服メーカーで長年の経験がある畑ヶ迫真次社長が就任。前社では中国・上海での工場立ち上げにも関わっており、就任後は、ジャストインタイムを骨子とするトヨタソーイングシステム（TSS）を一層推し進めたほか、人脈を生かした販路拡大や外国人技能実習生の教育などにも力を注いできた。

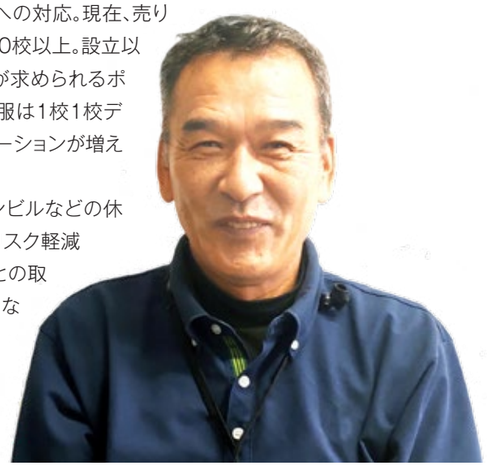
TSSにのっとり、職人が立った状態でミシン操作を行い、工程に応じて人間が数台のミシン間を移動し、1着ずつ流れ作業として製造する。ライン投入から完成までの期間が短いのが強みの一つ。経験豊富な社長による徹底した生産管理で、取引先からの厚い信頼を受け、受注が拡大していった。

デジタルソーイングシステム導入で人工数が減少し、縫製時間が短縮

一方で課題だったのが、多品種小ロット受注への対応。現在、売り上げの約9割を学生服関連が占め、学校数は200校以上。設立以来強みだったニット縫製に加え、熟練した技術が求められるポロシャツの襟加工への評価も高い。しかし、学生服は1校1校デザインが異なり、サイズ別になるとさらにバリエーションが増えるため、現場の負担は少なくなかった。

また、コロナ禍の影響で百貨店やファッションビルなどの休業が相次ぎ、顧客からの大口受注は激減。受注リスク軽減のため、ブティックやプライベートブランドなどとの取引拡大を視野に入れる必要があった。ブティックなどでは、ターゲットを限定する傾向が強いため、ハイクオリティーな製品製造に加え、多品種小ロットおよび短納期への対応が不可避だった。

そこで入力機能付き操作パネルが搭載された電子サイクルマシンを導入。事前に縫製パターンをプログラミングし、作業時にそれぞれのアイコンをタッチすれば、自動で即座に縫製を開始できるようになった。3工程を1台で行えるため、人工数は1人減少。1枚あたり約25分必要だったポロシャツの縫製時間が4分短縮され、時間あたりの縫製枚数は2枚以上増加した。


畑ヶ迫真次　代表取締役

☑ものづくり技術　☐革新的サービス









1　導入した電子サイクルマシン
2　襟部分の縫製には、熟練技術が必要
3　工場内の様子
4　高い技術が求められるボタンダウンのポロシャツ

高技術を要するボタンダウンポロシャツが人気“本物志向”のメンズブランドでも高評価

コロナ禍でアパレル業界全体が打撃を受ける中、想定外に伸びたのが、おしゃれ感の高いボタンダウンポロシャツ。「コロナの影響で、換気のために冷房中でも窓を開けるため、汗を吸って涼しい割に、きちんと感のある襟付きの受注が増えました」と畑ケ迫社長。夏用の制服にポロを採用する学校も多いという。高級ブランドを展開するメーカーへも積極的にアピールしている。

2021（令和3）年からは、“本物志向”のメンズ向けライフスタイルブランドの取り扱いもスタート。洗練された高機能マルチのゴルフウェアは好評で、着用したトッププロ選手が大会に優勝したことも。今後も高い技術力を生かし、高品質のものづくりに力を入れる。

■Company Data

有限会社ひまわりニット



会社外観

代表者名：畑ヶ迫真次
設立年：1991（平成3）年
資本金：3、000千円
従業員数：13名
主たる業種：繊維工業
本社：〒696-0001 邑智郡川本町川本254
電話：0855-74-2280
FAX：0855-74-2281